

# ニッケル先物取引をこう利用せよ 価格を固定化、リスクヘッジに 情報の収集手段としても有効性大

編集部

ニッケルの先物取引が大阪商品取引所で始まりました。これをどう利用すれば、企業経営に役立つのでしょうか。その方法を見てみましょう。

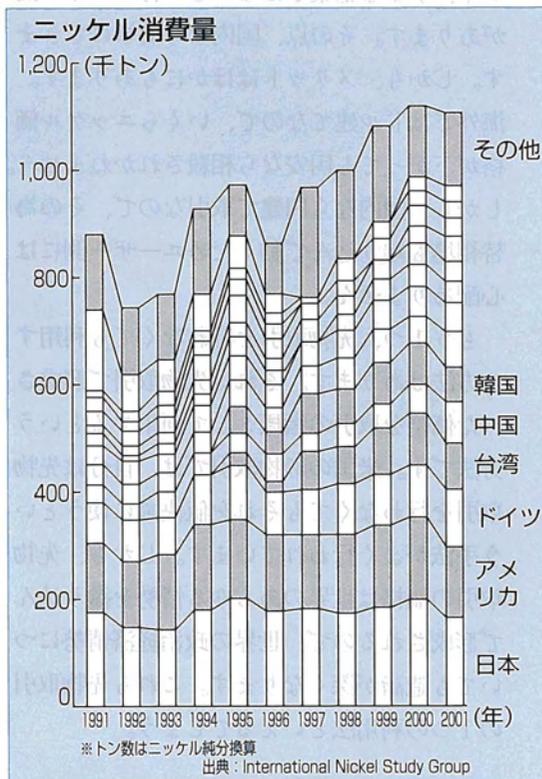
### 需要量は世界一

ニッケルと聞いたら、何を思い浮かべますか？ ほとんどの人はステンレス製の厨房機器ではないでしょうか。そう、ニッケル

は鉄に混ぜ、ステンレススチールとして、厨房機器、プラント、硬貨などに多く使われています。しかし、それだけではないのです。磁性材料として、スピーカーや通信機、非鉄合金として形状記憶合金、触媒として石油精製、そして二次電池としてニッケル水素電池、ニッケルカドミウム電池などにも使われています。ニッケルは最先端技術を底辺で支える“ハイテク素材”なのです。

とあって、ハイテクに強い日本では大量に使われています。2001年の日本の使用量は16万1,500トン。これは全世界の使用量110万9,400トンの15%弱に当たり、米国の12万9,600トンをしのいで、世界一です。

生産量は世界で114万8,200トン。国別ではロシアが24万5,000トンで最も多く、日本は15万3,700トンで第2位につけています。いわば、日本は供給、需要の両面で「ニッケル大国」なのです。



### 世界の指標はLME

それほどの大国でありながら、日本はこれまでニッケル価格については口を挟みませんでした。世界のニッケル価格は英国のLME（ロンドン金属取引所）での価格が指標となっており、それに沿った形で、日本でも値決めが行われていたからです。非鉄の世界は何で

もLMEが指標となっていますが、ニッケルも例外ではなかったわけです。

もちろん、ニッケルの価格があまり変動がなければ問題はありますが、実は大きく上下しているのです。LMEのキャッシュセトルメント相場（月間平均値）で見ると、1989年に1トン1万8,000ドルだったものが、99年には4,000ドルを割り込み、今年7,000ドルを超えてきました。

このように価格の変動が大きいと、その価格変動をヘッジ（保険つなぎ）しないことには、ニッケルの生産者もユーザーも、安心して眠ることはできないでしょう。では、ヘッジするにはどうしたらよいのでしょうか。ここに、ニッケルの先物取引が必要になってくるのです。

もし、あなたが、ニッケルのユーザーだったとします。現在、ニッケル価格が1トン90万円で、これをニッケルの原価として、ニッケルを含んだ製品（電池でも、厨房機器でも化学プラントでも）を半年かかって作るとします。もし、その間にニッケル価格が下落したとすると、問題はありません。原価が下がり、利益は上向くからです。しかし、上昇したとすると、どうなるのでしょうか。原価が上昇、利益が減少し、場合によっては採算が合わなくなります。

## 先物取引で原価を確定

このとき、先物取引の出番になります。ニッケルの使用者は使う分、先物取引で買っておくのです。もし、ニッケルの現物価格が上昇すれば、先物価格も上昇するので、こちらで利益が出て現物の値上がりによる原価高を吸収できます。

では、逆にニッケル価格が下がったときは

どうなるのでしょうか。現物価格の値下がりでは原価は下がり、利益は増大します。しかし、先物で買った分は下がるので、こちらでは損が出ます。その結果、現物の値下がり得た利益は先物の損で帳消しにされるのです。つまり、ニッケルを使う企業がニッケルの先物を買うということは「ニッケル価格を固定化する」ということで、ニッケル価格の騰落で利益をあげることではないのです。これが先物取引を使ったリスクヘッジなのです。

では、ニッケルを売る方はどうでしょうか。こちらは先物取引で「売り」を行うのです。そうすれば、これも販売価格を固定化でき、ニッケル価格の騰落で損得は生じなくなります。

## 為替の変動も織り込む

ただ、LMEでの取引は大手企業ならともかく、小さな企業ではなかなか行いにくい面があります。その点、国内なら簡単にできます。しかも、メリットはほかにもあります。海外ではドル建てなので、いくらニッケル価格が下がっても円安なら相殺されかねません。しかし、国内なら円建て取引なので、その為替相場も織り込んで動くためユーザー側には心配ありません。

もう1つ、先物取引を行わなくても利用する方法はあります。それは先物取引で形成された価格を取引の指標として利用するという方法です。米国の穀物取引では、自分は先物取引を行わなくてもそれを値決めに使うという手法がよく行われています。しかも、先物取引の価格は世界のあらゆる情勢を織り込んで形成されるので、世界の政治経済情勢についても造詣が深くなります。これも先物取引の1つの利用法といえるでしょう。